

提言4 . 若い人のパワーを呼び込む工夫をしよう

既に高齢化が進みつつある「街なか」において、にぎわいや活気を再生していく上では若い世代の発想や行動力をまちに呼び込むことが必要である。その意味において、若い世代の定住人口や就業の場を増やすことはもちろん必要であるが、それに加え、マスコミへの働きかけやイベントの実施などを通じ、「そこに行けば何かがある」といった「まち」の魅力を高めるとともに、常時多くの人があるまちを訪れ、その街で様々な活動をする雰囲気醸成することが必要である。

また、若い世代を「活用」するのではなく、「主役」として様々な活動を制約なく主体的に企画・実行してもらい、行政はこれを支援するというような姿勢も求められる。

若い世代の地域生活者を増やしていこう

子育て世代など若い世代の定住者を「街なか」に誘導していく上では、単に低廉な住宅の供給や定住支援施策だけではなく、医療、保育・託児、教育など様々な施策を総合的に実施することが必要。また、この際、市民のコンセンサスが得られるのであれば、「街なか」定住者へのより重点的な支援措置の実施などについても検討する意義がある。

また、空き店舗の利用や低未利用地、低利用公共施設の有効活用等も有効な手段であるが、この際、「安かろう悪かろう」に陥ることなく、やる気があって個店の魅力を持った若手商業者や起業家、クリエイターなどが集まるよう、若手商業者グループなどとのタイアップやイベントとの連携的实施など工夫を凝らすことも必要。既存グループとのタイアップについては、行政の広報に限界がある中で、そのネットワークを介してやる気のある野心的な若手商業者等に幅広く呼びかけることが可能となるという意味においても有効。

【例・名古屋市さくらアパートメント】

「若手」に主体的に活動してもらおう

イベントの実施や空き店舗の有効活用などについては、若手グループのアイデア、パワーや彼らのネットワークを最大限引き出すことにより、想像以上の大きな盛り上がりをもたらす場合も多い。既に活発な活動を展開している若手グループのある場合、企画段階から積極的に参画させていくことも必要。

また、面白いことに目がない一方、面倒くさがりで物事に熱しにくい若い世代を各種のまちづくり活動に巻き込んでいく上では、例えば祭りなどのイベントの企画について、一定のコンセプトだけ行政が提示した上で企画・実行を公募するといった取り組みや各地で行われている様々なまちづくり活動を若い世代に視察、経験させるといった取り組み、CATVなどのメディアとタイアップした活動の実施など、様々な取り組み、工夫を検討、実施していくことも必要。

なお、この際にも、提言2で触れたように、「小さな成功体験の積み重ね」が実感できるような戦術論も必要。

【例・名古屋市につぼんど真ん中祭り】